



## ダメージ43倍

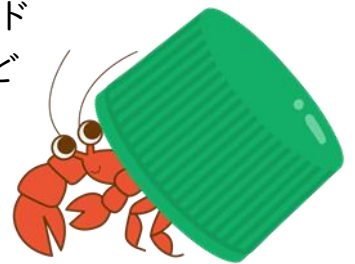
タイトルのそれは、日本自動車協会が発表した値です。これは、電動キックスクーターが時速20kmで走行中に歩道と車道との間の縁石や車止めに衝突した場面を再現し、頭蓋骨の損傷程度を表す値（HIC値）を計測しました。1000超で脳損傷の可能性があり、300超だと高確率で重篤な損害を負うとされます。縁石や車止めを想定した高さ10cmの障害物に衝突すると、人に見立てた実験用人形は、地面に頭を叩きつけられました。この時のHIC値は、ヘルメット着用時で1231.8、未着用時で7766.2となったそうです。他にも交差点で出会い頭に停車中の車と衝突した際は、実験用人形は、車に前頭部をぶつけた後、お尻から倒れて後頭部を地面に叩きつける形となったそうです。その際の後頭部のHIC値は、ヘルメット着用時で147.9、未着用時でなんと約43倍の6646.3となったそうです。



子供が電動キックボードに乗ることはできません。しかし帯西校区でも、電動機が付いていない、普通のキックボードに乗っている子供を見かけることがあります。キックボードでもかなりのスピードが出るため、転倒時の頭へのダメージは、かなり高いことが想定されます。帯西では公道では乗らないことをきまりとしていますが、公園等の広い場所で乗るときは、ヘルメットをお奨めします。

## ヤドカリの宿に異変

ヤドカリと言えば、貝殻を背負った姿を想像しますが、最近のヤドカリの世界には異変が起きているそうです。ソーシャルメディアなどに投稿された、人工の物を背負う386匹の画像を調べた結果、85%はプラスチック製のキャップなどだったそうです。本来、敵から身を守るための貝殻なのですが、このように人工の物を背負うのは、大きく二つの理由があるそうです。まず一つは、最も人気の高いプラスチック製のゴミは頑丈な上に自然の貝殻よりも軽いため、より実用性に優れている可能性が高いことです。もう一つはゴミで汚染された環境下ではもはや、自然の殻よりもゴミを身に付ける方がカモフラージュに有利であることです。これに加えて、殻としての目新しさも関係している可能性があると言います。身に付けている殻の形状や色調は異性へのアピールにも貢献するため、ライバルを出し抜くためにも色鮮やかで、奇妙な形の人工物を殻にしているとも考えられるそうです。



こうした地球環境の中で、生態の変化を余儀なくされる生き物は今後も増えていくでしょう。ヤドカリは人工物を宿にして私たち人間に訴えているのかもしれませんが。